



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

JAMARC,

開発調査センター
Fisheries Research and Education Agency

平成30年度海洋水産資源開発事業成果報告会プログラム

～漁船漁業や養殖業における新技術の社会実装に向けて～

日時：平成31年1月31日（木） 14:00～17:00

場所：東京海洋大学 白鷹館2階多目的スペース（東京都港区港南4-5-7）

（進行：開発調査センター所長 加藤雅文）

- | | | |
|---|--------------------|-------------|
| 1 開催あいさつ | 水産研究・教育機構理事長 宮原 正典 | 14:00-14:05 |
| 2 開発調査センターの概要 | 開発調査センター副所長 伏島 一平 | 14:05-14:15 |
| 3 成果報告 | | |
| 1) 北太平洋におけるアカイカの漁期拡大と漁場拡大に向けた取り組み
ー海洋環境に基づいた漁場形成要因の検討ー | | 14:15-14:45 |

底魚・頭足類開発調査グループ 加藤 慶樹

スルメイカを対象としたいか釣り漁業は記録的な不漁や外国漁船の無秩序な漁業によって安定的な操業が困難となっており、その影響でいか加工関連業界においても原料不足に陥っている。このような状況のなか、スルメイカに代わるイカ類の原料確保が、イカ類関連業界にとって大きなニーズとなっている。その一方で、アカイカは平成29年の冬漁（1～2月）では3年ぶりに漁獲がみられ、夏漁（5～7月）においても豊漁であり出漁した漁船のほとんどが満船帰港し約3,500トンが水揚げされた。さらに本年冬漁においても引き続き好漁が続いている。このようにアカイカに対する業界の依存度が高まっており、今後の安定的な漁獲が期待されている。そこで、アカイカ資源を効率的かつ有効に利用することを目的として、漁期および漁場の拡大の可能性に関して検討した。現在のところ、アカイカ漁は日付変更線付近で5月中旬から7月に操業が行われているが、本年度調査では、4月から9月まで西経域漁場を中心に海洋情報および統計モデルを用いた情報に基づいて探索・操業し、漁期拡大および西経域への漁場拡大の可能性を検討した。

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 2) 遠洋かつお釣漁業における電動自動釣機の開発 | 14:45-15:15 |
|--------------------------|-------------|

浮魚類開発調査グループ 木村 拓人

遠洋かつお釣漁業は高い釣獲技術を持つ乗組員を多く必要とし、良質な乗組員と人件費の確保が経営の負担となっている。国内の労働力人口の減少傾向に加え、高齢化の進行、これまで外国人乗組員を送り出してきた国々の経済発展による労働市場の変化など、今後も乗組員問題は厳しい状況が続くと考えられている。こうした状況を改善するため、遠洋かつお釣業界からの要望を受け、サーボモータを動力とする電動式自動釣機（以下、試作機）を開発した。さらに、試作機を基に開発された実証機及び改良型実証機について、船上で釣獲性能を評価した。動力にサーボモータを採用することで、乗組員の釣獲動作に近い制御が可能となるプログラムの組み込みが可能となり、現段階ではカツオの釣獲において、対人比率 62.9%（釣獲隣りの乗組員と比較）までの釣獲能力に至っている。

休憩

15:15-15:30

3) 定置網漁業の環境適正漁具診断と沖出し・大型化の効果検証

15:30-16:00

資源管理開発調査グループ 日高 浩一

高知県鈴地区における定置網事業では、乗組員の高齢化による労働力不足や新規就労者確保、収益の改善等の問題を解決するため、現状の漁具や漁労作業の評価と改善点、漁場環境と漁網形状のあり方について検討した。また、将来的な網の沖出し想定位置の評価を行い、利益増大を目指した沖出し・大型化の効果検証手法を提起することとした。漁具評価については、海底地形の把握、潮流・網深度計測による潮流と網成りの関係等を明らかにすることにより、漁場環境に即した漁網のあり方を提起した。また、沖出し適地選択のための評価としては、移設想定位置の潮流観測、設置型魚群探知機および計量魚群探知機調査により魚群分布量を試算した。これらの評価手法により、沖出し想定位置には、高密度の魚群が分布しており、沖出しや漁具の大型化により一定の効果が期待できることが示唆された。

4) スジアラ養殖の企業化に向けた技術開発

16:00-16:30

—新たな養殖産業の創出に向けた取り組み—

開発調査専門役 村上 恵祐

沖縄地方で高級魚として知られるスジアラを対象とした新しい養殖産業の創出に必要な技術開発について紹介する。まず、一般に馴染みの少ないスジアラの分布や生態的特徴等の基本的な情報について触れ、沖縄地方や中華圏、特に中国におけるスジアラの商品価値や市場の動向等について述べる。西海区水産研究所亜熱帯研究センターは、平成26年に本種の完全養殖技術の開発に成功しており、そこに至るまでの研究の経緯についても紹介する。この結果を受けて、平成29年度からスジアラ養殖の企業化に向けた技術開発を開始し、既存のスジアラ養殖技術による量産実証試験、養殖技術の高度化、国内外への試験販売等について進捗状況および課題を報告する。今後の取り組みとして、養殖スジアラの高成長を実現するための餌料や給餌方法等についても言及する。

4 全体質疑

16:30-16:55

5 閉会

水産研究・教育機構理事 和田 時夫

16:55-17:00